



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和8年3月

うるわし通信

桜井市政70周年を契機に、新しいビジョンづくり！

今年の9月1日、桜井市は1956（昭和31）年に誕生してから70年目を迎える。
第2次世界大戦が終結して80年が経過した今日、国内外での大きな社会情勢の変化の下に、今後の桜井市のまちづくりを進める上で、本会の各理事からそれぞれの場で取り組んでいる課題や今後の抱負について、投稿いただいた。読者と共有し、今後の中長期のビジョンづくりを進めたいと思う。
《編集部》

【午年にふさわしく。一步前へ！

踏み出そう前へ】

桜井市はハブシティつまり『古来、交通の要衝であった桜井』を標榜しているが、玄関口である桜井駅前の整備が急務である。

飛鳥藤原世界遺産認定の今年中になんとしてもやらねばならないと思う。

みたらし団子店跡を土産品店にして、その周辺は古代へ誘う雰囲気ファサードに改装、賃貸住宅や学習塾の宣伝垂れ幕は、観光訪問客向けのロゴを入れたデザインに変更を要請、電柱に祝祭旗を掲げるなどの工夫だけでも印象はガラリと変わるはずだ。

纏向遺跡整備計画が2025年度策定されたことを受けて、初年度の今年から具現化に向けた事業を開始すべきである。

まずは動き出すことが肝要で、当会もシンポジウム開催など機運醸成に取り組みたい。

堀井 良殷



桜井駅南口

【できる事から

世界へひらく桜井のこれから】

今年は桜井市政70周年という節目の年です。私は生まれ育ったふるさと桜井へ戻ってきて15年になります。地域の皆さんと顔を合わせ、語り合いながら、微力ではありますが、まちづくりに関わり続けてきました。

古代の街道が交わり、過去から未来へとつながるこのまほろばの地を「時空（とき）の交差点」と捉え、桜井駅南エリア・本町通商店街を起点に、空き店舗や空き町屋を活かす取り組みを重ねてきました。緑豊かな自然に囲まれたこの地で、カフェやレストラン、宿が生まれ、食やもてなしといった桜井らしい文化が息づいています。

今年はいよいよ飛鳥・藤原京の世界遺産登録が目前に迫り、桜井駅はその東の玄関口となります。今年市とも連携し、駅前の案内や回遊動線の工夫、場づくりに取り組むと共に、2月から始まった桜井駅前広場での桜井バルを通じてグルメと宿、人がつながる賑わいを育て、日本の始まりの地・桜井の魅力を自らの行動で伝えていきたいと思ひます。

岡本 健

**【男女共同参画にむけ、組織・団体の
女性委員（役員）比率を3～4割に】**

桜井市も発足70年を迎えるが、この間2024年度は天理市、2025年度は橿原市が共に発足70周年で、宇陀市は発足20年となった。

節目の年をどのように迎えるかは、人の場合には新たな抱負や目標等を抱くことになるが、自治体という共同体（地域社会）では、それは何なのか。やはり、未来への展望を市民の中で共有することが不可欠だと思う。

少子高齢化と人口減少が急速に進み、特に20～40才世代の減少が小中学校の在学生徒数の減少になり、学校統合へと進もうとしている。桜井の魅力再認識・再発見して注目される地域をめざすことで、市内外の人々の交流機会を作って、経済活動に繋げることが、地域の活性化の1つの方向性になると言われている。

では、何を具体的に進めるのかは、地域で取組まれている、1つ1つの具体的な活動を繋げて、市民に見えるようにしていくことしか無いのではないだろうか。その様なエネルギーのある組織への転換が先ず求められている。その為のアプローチは、市内の諸団体・組織の刷新。具体的には女性委員（役員）の比率を各組織の中で当面（2年程度で）、3～4割に高めることを方策としてすべきではないか。

（既に到達されている団体・組織があることも認識しています）
楠木 克弘

【これからのコミュニティバスの在り方】

高齢化社会におけるコミュニティバスをどう捉えるか、今後のコミュニティバスはどう在るべきか、総合的視点で考察し、体系的な施策を講じる必要がある。

〈財政面からの考察〉

現在桜井市では2025年度において、六千万円の補助金を投入している（内何割かは国の交付金）

笠原氏は著書で公共交通がもたらす利益として潜在的利用者の利用可能性や費用負担のメカニズムを考えて一定の赤字経費を負担する必然性を述べている。その中で「手軽な移動による利益は、低所得者や高齢者等交通弱者の地域内での移動を促進し雇用促進効果があり、結果として社会サービス費用節減効果があり、総合的な財政支出抑制の働きがある」としている。行政による公共交通路線維持に要する負担については、欧米では赤字補填という考えではなく、公共的インフラに対する投資として支援措置が講じられ市民が協力すべき事として、交通に社会的資本としての地位を与えている。

〈将来に向けての取り組み〉

運行ルート、停留所、便数等を見直し、利便性の向上と経費削減を図る。

今年はコミュニティバスの利用促進に向けて考えていきたいと思っています。

小野田 和子



近鉄桜井・国鉄駅南口駅前

いにしへの桜井市
奈良県立図書館情報館所蔵



映画館 シネマサクライ

【桜井に万葉集の拠点を】

万葉集のご研究で有名な上野誠先生は、保田與重郎先生が青年期まで過ごされ、また山ノ辺の道のあるここ桜井で万葉集に親しんでもらう拠点をもちたいと考えていらっしやいます。

上野先生から相談を受け堀井理事長、ひがし理事と共に5年後を目指して取り組んでおります。多くの皆様に万葉集に親しんでいただくこと、そしてこの歴史ある桜井を全国の皆様に知っていただく事ができるように良い拠点を設けたいと考えております。桜井のどこの場所にするか、上野先生の蔵書をどのように扱い、また万葉集に親しんでいただくためにどのような取り組みをするかなど課題はたくさんありますが、身近なところから1つずつ取り組んでいきます。何卒よろしく願いいたします。

石井 智子

【市政施行100年を想う】

桜井市が誕生して70周年、人間にたとえると古希にあたる。古希は、唐の詩人・杜甫が詠んだ詩「人生七十古来稀なり」に由来している、つまり、「70歳まで生きる人は希（まれ）なこと」という意味だ。

市政施行を成し遂げた当時の識者達は鬼籍に入る、70年後の桜井市についてどのように語っていたのだろうか？人が100歳（百寿）を迎えるのは希なことだが、市制施行100周年を迎えた自治体は既に存在する。

桜井市の百寿は2056年、少子高齢化の荒波は治まっていないだろうが、AIに取って代る科学技術は誕生しているだろう。

現在は箸墓古墳を宇宙線「ミュオン」を利用した透視画像による内部調査を実施しているが未だ構造が明らかにはなっていない。しかし人類の英知によって2056年には、邪馬台国論争は決着しているかもしれません。

ひがし俊克



大和信用金本店



桜井高等学校



桜井電報電話局



駅前商店街



桜井病院



【桜井の巨人：森本六爾】

亡き芝房次氏はうるわしの桜井をつくる会の創成期からのメンバーである。生前何度も言われていたのは桜井市には絶対忘れてはいけない文化的巨人がいる。森本六爾である。

彼の記念館をつくるのが私の人生の遺言であると。桜井市が生んだ非凡の考古学者森本六爾は大正末から昭和の初めのわずか14年の研究生活の間に、熱中したテーマは、弥生文化の研究、古墳文化の研究、奈代墳墓の研究と多岐にわたり、それらの研究業績は80余年すぎた今も燦然と輝いている。

唐古遺跡から採集した土器破片の底に、押圧された靨跡を発見した。これは大発見であり、弥生時代はいまだに農耕社会に発展していないという当時の学説を根本からくつつがえすものであった。東京の林芙美子記念館を訪れた時、パリでの多くの日本人学徒との交流写真の中に森本六爾の顔を発見した。改めて芝先生の遺言を実現すべく努力したい。

船谷 晴夫

【桜井市市政70周年に寄せて】

大和信用金庫もこの桜井の地で今年設立75周年を迎えます。

信用金庫はそもそも非営利組織であり、株式会社の様に利益追求を第一義とせず、地域社会の発展・繁栄を図る、地域企業、地域住民のための地域密着型の協同組織金融機関です。

当金庫の基本理念は「信頼」、「地域」、「幸せ」としてあります。お客様から「信頼」される信用金庫を目指し、「地域」社会の発展に貢献し、職員および家族の「幸せ」を大切にす信用金庫を目指しています。そのためにも、先ず地域社会の発展無くして、当金庫も成り立ちません。

地元桜井市が70周年を機に益々発展していくように、当金庫も地域の為に最大限の貢献を果たして参ります。

「うるわしの桜井をつくる会」は設立15年を超え、会員各位の固定化・高齢化が顕著であり、今後の組織理念の継承が大きな課題であると認識しています。若い世代との交流を進め、若い世代との意見交換の中で、今後の会の進路が見えてくるのではないのでしょうか。

新 元秀

編集後記

＜明けない夜は無い＞というが、厳しい寒さに耐えようやく春の光を感じ、梅の香りが漂う時期となった。しかし同じ地球上で今もなお、ガザやウクライナでの厳しい状況は進行している。NHKの朝ドラではないが「毎日難儀なことばかり♪♪」とは、言っていない。何とかしようと思組も進められてきている。

70周年を迎える今後の桜井市のビジョンを出し合おう、との昨年末の理事懇談会を受けて、さまざまな取組み紹介や期待を各理事から頂いた（諸都合で未投稿の方もおられるが）。今回の提起頂いた事柄を、それぞれの場で、また連携を深めて具体化していきたいとおもう。その先には、新しいSAKURAIの光が照り輝いていることを願って。

（編集子 楠）

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL:090-3652-8104